

竹ノ塚教会礼拝レポート

北東京 教区 竹ノ塚 CH : 報告者 河野 賢二 天基 2 年天曆 9 月 6 日陽曆 10 月 2 日 (日)



朴聖熙教会長

『日本統一教会創立 52 周年記念メッセージ』

本日は日本統一教会創立 52 周年を迎える記念すべき日に礼拝を迎えました。聖歌隊の讃美で礼拝が始まりました。『み旨応援歌』を元気よく讃美し、天一国国歌『栄光の賜物』を厳かに讃美しました。天地人真の父母様に敬拝をおさげし、家庭盟誓を全体で唱和し、本日初めて礼拝に参加された方とお誕生日を迎えられた皆様にお花と歌のプレゼントをお届けしました。

そして本日は創立 52 周年記念に合わせて、これまで天のみ旨の為に精誠を尽くされた皆様に功労賞が送られ、教会長から表彰状が授与され功労を讃えられました。また平和大使任命式もともに行われ、平和世界実現に向けて決意新たにされました。

また途中、教会長から 6 名の婦人代表の皆様よりりんごが伝授されました。そしてこれを種として参加者全員にりんごがプレゼントされました。りんごは韓国語で謝罪するという意味が込められており、今日の創立記念日を中心として、これまで天に不足であった歩みを悔い改め、起源節に向けてみ旨にさらに邁進する決意を固めて、新しく出発する 1 日となりました。

み言訓読 新約聖書マタイによる福音書第 22 章 37 節～40 節

文鮮明先生自叙伝『平和を愛する世界人』より

「日本統一教会創立記念日おめでとうございます。2002 年真の父母様は私達に聖酒を与えてくださりながら、天一国創建の出発をされました。また、お父様は韓国語で“謝罪”という意味をもつりんごを当時式典に参加された全員に伝授されました。私達が悔い改めてもう一度天のみ旨と一つになり、兄弟姉妹が一つになれるように出発しました。今日同じように日本統一教会創立記念日を迎え、同じように皆さんにりんごを伝授しました。

先日長野教会に行きました。そこにはお母様がお越しになられ植樹されたりんごの木があります。そこからりんごをいただけてきました。それを連結することができました。ですから天からいただいたりんごとして受け取っていただければと思います。

今日は創立記念日です。お父様が命がけの断食の精誠の土台の上で今日まで来た日本統一教会です。教会の漢字を見れば、教えるという字です。お互いに教え、教えられる為に会うところです。また、病

院のような所です。み言は万病に効く特効薬のようなものです。また、教えるという字は親孝行の孝の字に父です。親孝行を教えることが宗教です。人間は宗教心をもっているのです。聖殿は神様が宿る場所です。本来は私の体が神様が宿る聖殿にならなければなりません。

世界基督教統一神霊協会、ばらばらになっているキリスト教を一つにする協会それが、統一教会です。この名前のゆえに様々な迫害を受けてきました。神霊とは愛を中心として一つになる、調和させる意味です。礼拝は神霊と真理で捧げるのです。愛と真理です。真の愛を中心として親子の関係、これが真理の中の真理です。神様と人間が父子の関係であるということを教えてくれたのです。

このように素晴らしい内容をもって出発した統一教会です。お父様が日本に一人の宣教師を送ってくださって大変な困難の中を歩んできました。統一教会には十字架はありません。イエス様は十字架にかかるために来られたのではありません。ですから十字架ではなく、統一マークがあります。ここに原理の全てが込められているのです。神様の創造原理、創造目的がすべて含まれているのです。統一旗を各家庭に掲げましょう。旗がバタバタとはためく音はサタンが最も嫌う音なのです。私が韓国で牧会をしていたとき、統一旗を家に掲げた3日後、父親がなんと原理修練会に参加することになったのです！そして一緒に3万双の祝福を受けることができたのです。

神様が自らの代わりに地上に送って下さいました文鮮明先生です。神様の体として顕現されるのです。霊界に行っても神様は見えません。見える形として現れたお方が真の父母様です。神様は親の愛でもって変わらない愛で愛してくれるのです。そして与えてもまた与えたい心、それが親の心です。ですから神様は救援摂理をしてこられたのです。真の父母様によって救いの道を開いて下さったのです。人類歴史は真の父母を探す歴史でした。サタンの血統を受けてしまった私達に祝福の道を開いて下さいました。真の父母様は祝福を通して私達を救って下さったのです。

統一教会において10月は解放と祝福の月です。祝福を受けた私達は何をすべきか、親から頂いた神様の血統を絶対的に守っていくのです。これから祝福を受ける人も、神様と真の父母様を絶対信仰して、愛し侍っていくことです。

創立記念日を迎えた今日、もう一度信仰を正し、神様と真の父母様に感謝し、天のみ旨を共に歩む統一食口となっていきましょう。



